



IPCC第6次評価報告書(自然科学的根拠)から



《地球温暖化の現状と将来予測》

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、2013年の第5次の評価報告書(AR5)から8年ぶりに改定を行い、2021年の8月9日に「第6次評価報告書(AR6)第1作業部会報告書(自然科学的根拠)」を公表しました。今回は、この第1作業部会報告書(自然科学的根拠)の概要について紹介します。

○今後の公表スケジュール(予定)

- ・2022年2月 第2作業部会報告書(影響・適応・脆弱性)
- ・2022年3月 第3作業部会報告書(緩和)
- ・2022年9月 統合報告書

※詳しい内容については、下記ホームページをご覧ください。
(全国地球温暖化防止活動推進センター)

ホーム>温暖化を知る>世界の動向>IPCCとは?、WGI第作業部会(自然科学的根拠)



地球温暖化の原因は、

『人間活動が**大気・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。**』




《第5次報告書(2013年)では人間活動による温暖化の影響は極めて高い(95%以上)》とする報告であったが、第6次報告書ではさらに踏み込んだ「**疑う余地がない**」とする断定的な表現となりました。



現状(観測事実)

- ・大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は、過去80万年間で前例のない水準まで増加している。
- ・2019年の大気中のCO2濃度は410PPMであり、工業化前より約47%高くなっている。
- ・世界平均気温(2011~2020年)は、工業化前と比べて約1.09°C上昇、陸域では海面付近よりも1.4~1.7倍の速度で気温が上昇、北極圏では世界平均の約2倍の速度で気温が上昇。
- ・陸域のほとんどで1950年代以降に大雨の頻度と強度が増加
- ・強い台風(強い熱帯低気圧)の発生割合は過去40年間で増加
- ・北極の海氷(2010~2019年)は、1979~1988年と比べて、海氷が一番少ない9月で40%減少、海氷が一番多い3月で10%減少
- ・世界の平均海面水位は1901~2018年の間に約0.20m上昇

IPCC第6次評価報告書におけるシナリオとは

シナリオ	シナリオの概要	近いRCPシナリオ (2021年時点での 気候政策シナリオ)
 SSP1-1.9	持続可能な発展の下で 気温上昇を1.5°C以下におさえるシナリオ 21世紀末までの気温上昇(工業化前基準)を 1.5°C以下に抑える政策を導入 21世紀後半にCO2排出正味ゼロの見込み	該当なし
 SSP1-2.6	持続可能な発展の下で 気温上昇を2°C未満におさえるシナリオ 21世紀末までの気温上昇(工業化前基準)を 2°C未満に抑える政策を導入 21世紀後半にCO2排出正味ゼロの見込み	RCP2.6
 SSP2-4.5	中道的な発展の下で気候政策を導入するシナリオ 2030年までの各国の国別削減目標(NDC)を 集計した排出量上限にほぼ位置する	RCP4.5 (2050年までは RCP6.0にも近い)
 SSP3-7.0	地域対立的な発展の下で 気候政策を導入しないシナリオ	RCP6.0 と RCP8.5 の間
 SSP5-8.5	化石燃料依存型の発展の下で 気候政策を導入しない最大排出量シナリオ	RCP8.5

出典: IPCC第6次評価報告書および環境省資料をもとにJCCCA作成

出典: IPCC第6次評価報告書及び環境省資料をもとにJCCCA作成

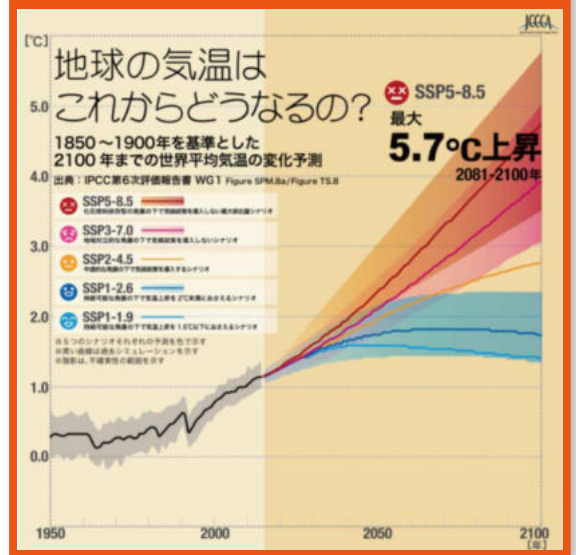


将来予測 (気温、降水量、海面水位)

【気温】

気温の将来予測について、21世紀半ばに実質CO2排出ゼロが実現する最善シナリオ (SSP1-1.9)においても2021~2040年平均の気温上昇は1.5°Cに達する可能性があると発表しています。化石燃料依存型の発展の下で気候政策を導入しない、最大排出量のシナリオ (SSP5-8.5)においては、今世紀末までに3.3~5.7°Cの昇温を予測しています。

2100年までの世界平均気温の変化予測 (1950~2100年・観測と予測)

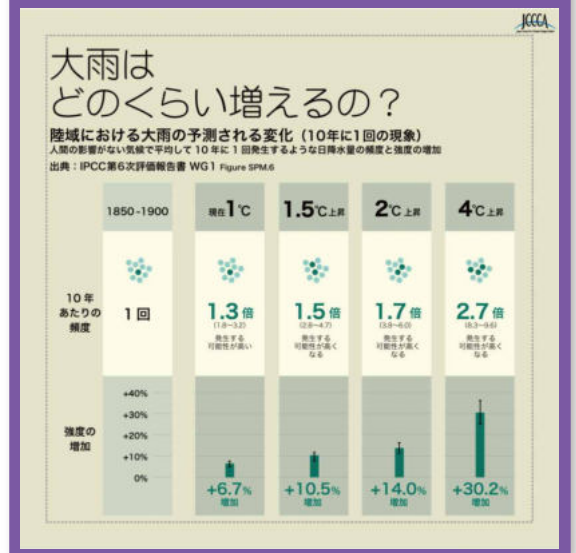


出典: IPCC第6次評価報告書

【降水量】

今世紀末 (2081~2100年) の年平均降水量は、1995~2014年と比べて、最大で13%増加するとの予測を発表しています。世界規模では地球温暖化が1°C進行するごとに、極端な日降水量の強度が約7%上昇するという予測もなされています。

大雨の予測される変化

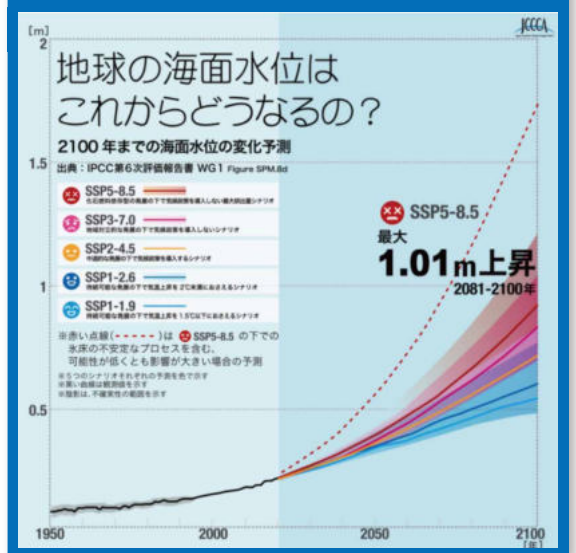


出典: IPCC第6次評価報告書

【海面水位】

2100年までの世界平均海面水位上昇量は、1995~2014年と比べて、0.28~1.01m上昇するとの予測を発表しています。今後2000年の間に海面水位は最大で22メートル上昇する可能性があると述べています。

2100年までの海面水位の変化予測



出典: IPCC第6次評価報告書

住民の「省エネ家電利用意向」に関する実態調査結果

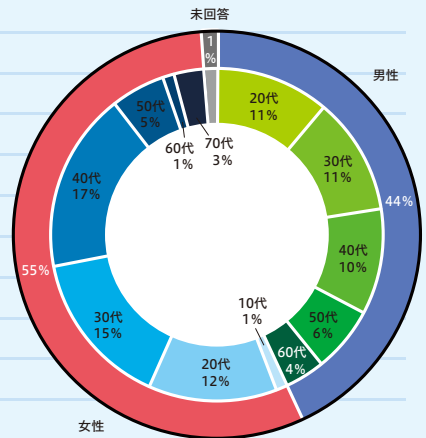
当センターでは、今年度、環境省事業の一環として、「省エネ家電利用意向」の実態を把握するため、「会場アンケート調査」を実施しました。「省エネ家電への買い換え」の促進は、「2050年カーボンニュートラル社会」の実現に向け、最も身近な「地球温暖化対策」としての取り組みの一つとなっています。また、この取り組みは「CO2削減への貢献」だけにとどまらず、日常生活における「コストの低減」や「快適で健康的な暮らしの創出」などのメリットももたらします。今回の「アンケートによる実態調査」は「住民の省エネ家電買い換えの動機」を把握することにより、省エネ家電に対する「意識・行動変容」を促していくために必要な「普及啓発活動」の展開に資することを目的としています。

1. 省エネ家電利用意向実態アンケート調査の有効回答数・性別年代構成比

- 回答数 582件
- 性別・年代構成比(円グラフのとおり)



「5つ星家電」とは、統一省エネルギーラベルで、☆5つの家電を指します。(エアコン、電気冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、電気便座、蛍光灯器具)



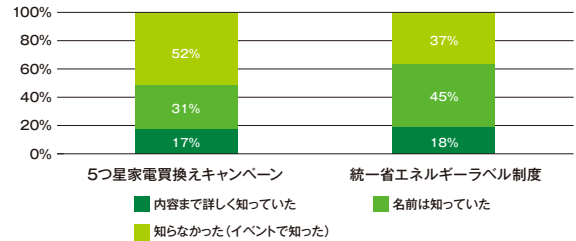
2. アンケートの設問及び回答

(問1)「統一省エネルギーラベル制度」を知っていましたか。

- ・名前は知っていた (39%)
- ・内容まで詳しく知っていた (16%)
- ・名前は知らなかった (32%)

※「名前は知っていた」、「内容まで詳しく知っていた」を合わせると(55%)であり、半数以上の認知度があり、非認知は約3割。

省エネ家電キャンペーンに係る認知度

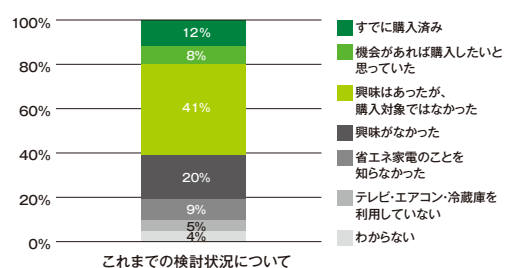


(問2)「省エネ家電」に興味がありましたか。

- ・すでに購入済み (12%)
- ・興味はあったが、購入対象ではなかった (41%)
- ・機会があれば購入したいと思っていた(8%)
- ・興味がなかった(20%)
- ・省エネ家電のことを知らなかった (9%)

※「興味はあったが」、「機会があれば」の回答は49%であり、「購入済」と合わせると約6割が「省エネ家電の購入について前向き」となっている。

これまでの省エネ家電検討状況

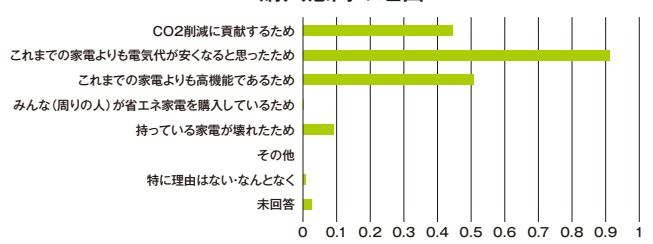


(問3) 前問で、「省エネ家電の購入について前向き(6割)」の回答者に、「なぜ省エネ家電を購入しましたか/興味をもちましたか」の理由を聞きました。(3つまでの複数回答)

※結果、多い順位は

- ①これまでの家電よりも電気代が安くなる
- ②これまでの家電よりも高機能である
- ③CO2削減に貢献するため
- ④持っている家電が壊れた

購入意向の理由



3. 回答結果から見えたもの

●問1「統一省エネルギーラベル制度」を知っていましたか。

「知っている」が55%と過半数を超えており、家電購入にあたっては、「省エネ性能」を判断基準の一つとしている。

●問2「省エネ家電」に興味がありましたか。

「購入意欲を持っている」が61%であり、家電の購入にあたっては「省エネ家電」を判断基準の一つとしている。

●問3「なぜ省エネ家電を購入しましたか/興味をもちましたか」

「低コスト」、「高機能」、「CO2削減に貢献」を主な判断材料としている。

これらのことから、「住民への省エネ家電買い換え促進に必要な普及啓発活動」では★印の事項について「訴求」が効果的である。

★新旧家電の消費電力量や料金の比較について説明する。

★印の説明資料は、「スマートライフおすすめBOOK(一般財団法人家電製品協会発行)」、「省エネ製品買換えナビゲーションしんぎゅうさん」「ストップ地球温暖化読本(県地球温暖化防止センター発行)」などをご活用ください。

★CO2削減の貢献度について説明する。

★省エネ家電購入時の「選ぶ基準」について説明する。

「ペットボトルを減らそう」ポスターを作成しました。活用を!

ペットボトルをへらそう

清涼飲料水のペットボトル消費量は年間 一人171本
2019年に日本で販売されたペットボトルは合計約 217億本(59.3万トン)

マイボトルをつかおう

マイボトルを使っているよ!

日本の水道水は安全で、安心して飲むことができます

給水スポット

●日本の水道水の検査基準は51項目ミネラルウォーターの43項目よりも厳しく管理されているので安心です
●水道水には殺菌のため、蛇口のところで0.1mg/リットルの塩素の保持が定められています。ごく微量のため健康には全く支障がありません

給水スポットをネットでさがす

●横浜マイボトルスポット検索
●リフィルジャパン Refill Japan

マイボトル

神奈川県地球温暖化防止活動推進センター・NPO かながわアジェンダ推進センター

「マイボトルの普及」により 環境への負荷軽減と健康促進を!

今や「ペットボトル」は私たちの生活の中において欠かすことが出来ない便利「製品」となっています。

「清涼飲料水」「天然ミネラル水」、「コーヒー」「お茶」など単に水分の補給を目的としたものだけではなく、いろいろな味覚を楽しむことができる多様な「製品」が販売されています。

しかしながら、現在日本国内において販売されている「ペットボトル」は、年間約233億本(2020年度)に上っており、そのうち捨てられて未回収となっている量は、実に約7億6千万本(1万8千トン)で、川や海への汚染原因の一つとなっています。

今年も地球温暖化を起因とする「異常な気温上昇」に伴い、ますます「ペットボトルの消費量の増加」が予想されます。

私たちは「ルールを守り」地球に優しく。環境への負荷軽減と熱中症予防の健康対策として、「マイボトル化」への取り組みを普及していく必要があります。

環境活動団体紹介

子どもたちとプラごみ撲滅大作戦! 「NPO法人海の森・山の森事務局」

NPO設立して丸10年。海のプラスチック汚染やマイクロプラスチックなどの問題と真摯に対峙し、未来の地球を担う子どもたちと一緒にこの問題解決に向けて活動しています。教室での出前授業はもちろんのこと、茅ヶ崎や城ヶ島など、県内の海岸において子どもたちとの実習を企画運営もしています。自らの五感で想像以上に深刻な環境問題の実情を感じ取った子どもたちは、まさに自分ごととしてこの問題を真剣に捉えます。さまざまなアイデアを子どもたちから引き出し、問題解決に向けた子どもたち独自のアクションをあちらこちらの小学校で繰り広げています。



編集後記

プラスチックごみが深刻な問題として皆の関心を集めています。便利で快適な生活を手に入れるために、私たちは環境に配慮することを怠って来てしまいました。ですが、今の私たちの生活をすべて否定して昔の生活に逆戻りはできません。個人に出来る範囲で合理的な生活を組み立て、持続可能な社会を目指す方法として、しっかりごみの分別に励んでいます。「混ぜればごみ・分ければ資源」というスリーアールの標語がありますが、これは誰にでもすぐに取り組むことができる環境活動の第一歩と言えると思います。

編集・発行

発行日 2022年2月吉日
神奈川県地球温暖化防止活動推進センター／特定非営利活動法人かながわアジェンダ推進センター
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター9階
TEL: 045-321-7453 FAX: 045-321-7454 URL: <http://www.kccca.jp> E-mail: info@kccca.jp
閉館日: 日曜日・祝日・県民センター休館日 開館時間: 9:00~12:00 / 13:00~18:00

法人の活動を支援して下さる会員を募集しています!

年度会費 ○正会員・個人 5,000円 ○賛助会員・個人 1,000円

詳しくは事務局までお問合せください。